



■主な内容

UIFA JAPON 新会長を引き継いで
2010 UIFA ソウル大会 全体報告
第1日報告 第2日報告 第3日報告
写真でつづるポストコングレスツアー
第50回海外交流の会報告「環境をデザインする」
ハンゲル講座に参加して
2回の「韓国住文化」勉強会に参加して
魅力的なりノベーションNo.11
IAWA 25周年記念 日本巡回展と講演会
UIFA JAPON 英文パンフレットとホームページ



ソウル宣言(抄訳下段) ド・ラ・トゥール UIFA 会長 仏国寺羅漢殿横で石を積み(写真:NO)

UIFA JAPON 新会長を引き継いで

From the New UIFA Japon President

松川淳子 MATSUKAWA Junko

この6月にUIFA JAPONの会長を小川信子前会長から引き継ぐことになりました。引き継いで4か月近くが経ちましたが、大変緊張しています。力不足は自覚していますが、名誉会長に就任してくださった小川先生や正宗副会長はじめ会員みなさまのお力をお借りして、なんとか務めていきたいと考えています。

今期には、大きな事業が3件あります。ひとつは、第16回UIFA 韓国大会ですが、これは先日大盛況のうちに終了しました。韓国の実行委員会は大変だったと思いますが、とても上手にオルガナイズされていて、もりだくさんの行事を私たちも十分楽しみました。セッションでの発表や、ポスター展などにも日本からたくさんの方が参加があり、「UIFA JAPONの協力がなかったら、こんなにはできなかった」と、大変感謝されています。

2番目は、来年6月の通常総会時に行われるIAWAと協力して開催される「日米女性建築家のパイオニアたちの肖像(仮題)」という展覧会と記念講演です。現在、実行委員会が発足し、IAWAとの交渉を具体的にはじめようとしています。

また、来年9月末には、UIAの大会が東京で開催されることになっていて、これにもお茶会や展示で協力していこうとしています。UIFA JAPONの会員には、JIAに加入している方もいらっしゃるのですが、これにも協力していくことになっています。

事務局体制は、今回から事務局長に北本美江子さんをお願いし、さらに強化を図っています。会員制度の見直しによる会員増強も課題です。

山積する課題に押しつぶされて、「売り家と唐様で書く三代目」にならぬよう、取り組んでいきたいと思っています。どうぞよろしくお祈りします。

2010 UIFA ソウル大会 全体報告

Report on UIFA Seoul 2010: Day-by-Day Overviews

正宗量子 MASAMUNE kazuko

2010年10月4日から12日迄、第16回UIFA国際会議が韓国の首都ソウルで開催された。参加国数18、参加者数174名で、「緑の環境」(Green Environment)等をテーマに様々な角度から分析、研究成果が発表、展示された。日本からの参加者は27名(会員21名)で主催国・韓国を除くと最多参加国。4日午後、建築家会館で登録を行い、5日の本会議は、会場の国立中央博物館で、テープカットのオープニングセレモニーから始まった。それから3日間、3人の基調講演の後、6つのセッションが、韓、仏、英、日の同時通訳で行われた。発表者は35人、内日本の発表者は6人(協同者は11人)、パネル参加は9組15人だった。会期前半の4日間は、午前中がセッション、午後はソウル市内外へフィールドトリップ、1日エクスカージョンがあり、ソウル市主催のディナーではド・ラ・トゥールUIFA会長、松川UIFA副会長(UIFA JAPON会長)、ウォン・キョンギンKIFA会長、により、「ソウル宣言」が行われた。

10月8日仁川のホテルで事務局会議が開かれ、次回開催国として、モンゴル、USA、アルゼンチンの3カ国が立候補し、年末迄に、それぞれの国の企画書が提出される予定だ。その夜は、参加者によるフェアウェルパーティがにぎやかに開かれた。

後半の4日間のポストコングレスツアーは、翌9日に仁川を出発し、慶尚北道の金泉市で慶尚北道建築祭2010を見学し、10日古都慶州で古寺や史跡の見学を経て、11日全羅北道の全州市へバスで移動した。12日には、全羅北道庁舎にて、全羅北道建築祭2010の建築科学生優秀賞の授与に立ち会う。その会場にはソウルから巡回してきたパネルがすでに展示されていた。国を挙げての歓待と緻密な計画力に裏づけられたソウル大会に対し、参加者一同、主催国メンバーへの感謝の中に全会議が閉幕した。



Seoul 2010 チマチョゴリの美しさと、各国のアドリブダンスなど思い出に残るフェアウェル・パーティー(写真:K)

UIFA ソウル宣言 2010年10月7日

UIFA Seoul Declaration Oct. 7, 2010

UIFAは次のことに努めます
グリーンデザインの普及・都市基盤計画における生態バランスの回復・建築行為の低炭素化・グリーンデザイン指針の構築・人と建物の健康のための異業種の連携

UIFA 会長、KIFA 会長

(抄訳編集)

第1日目：10月5日 Day One

安武敦子 YASUTAKE Atsuko

10月5日：紅葉の始まったソウル。4日事務局に預けたポスターはきちんと会場の国立中央博物館に展示され大会初日の5日朝には見て回ることができました。

大会初日はセッション1で山本佳代子さん、セッション2で三上紀子さんの発表です。2つのセッションは2室同時並行で行われ、山本さんは Genealogy of the Garden City Concept and Green Belt Concept in Asia。アジア各国の都市計画におけるグリーンベルト等緑環境の扱われ方が概観でき、国によって大きく異なることを始めて知ることができました。三上さんは正宗さん、矢加部さんとの共同研究で The traditional design Spirits of Japanese garden。日本の伝統的な回遊式庭園や坪庭等を紹介しながら日本のデザインスピリットを解説されました。会場は日本語の同時通訳も急遽入り、私たちにとって聞きやすい環境でした。

セッション後は博物館屋外でランチを取り、フィールドトリップへ。ソウルの宮殿、そして宗廟を見学。宗廟は朝鮮王朝の先祭

祀場。1395年9月に完成するも1592年秀吉軍によって破壊され、1608年に再建されたものが現存しています。石畳の3層の道は神、王様、跡継ぎの道に別れ、中央の神の道を踏まないように注意しながら園内を回りました。巧みな日本語ガイドでより深く知る機会となりました。

夜はハイアットでディナー。赤と緑という服装コードを知らなかった私は前日に服を調達し、民俗芸能とお料理を堪能しました。



宗廟での参加者たち (写真：K)。

第2日目：10月6日 Day Two

山本佳世子 YAMAMOTO Kayoko

10月6日：第16回UIFA世界大会は韓国のソウルで開催されたため、韓国人の参加が最多であるのは当然であるにしても、私たち日本人に加えて中国やモンゴルからの参加者も決して少なくはなかった。これらの国々は、アジア地域のうちでもとくに東アジアと呼ばれており、私にとっては類似した気候や風土、生活様式であるような印象があった。しかし今回のUIFA世界大会において、世界的に大きく捉えれば類似性が高いように思えるが、発表などを通じて細部を比較すると大きく異なっていることを強く感じさせられた。

2日目は、顔見知りの人々、会話を交わしたことがある人々が増えてきたせいか、諸外国の人々と話をする機会が多かった。第1日目午前のセッションで私は発表したが、同じセッションで韓国人2名と中国人1名も発表していた。このセッションでこれらの国々の人々の発表を聞いた後に東アジアの人々と話し合うと、日本、韓国、中国、モンゴルなどでは、都市計画、建築、ランドスケープなどの実に多くの部分が大きく異なっていることがわ

かった。このような異質性が生じた原因は、まず、それぞれの地域の気候や地形、地質などの自然環境が大きく異なっていることであると思われる。しかしさらに、人々がこれまでに作り上げてきた、築き上げてきた、伝統や文化、歴史、思想、宗教などの文化環境の影響も大きいように感じられる。

今回のUIFA世界大会の経験から、私自身、発表で紹介された事例や話し合いで初めて知ったことを、自分の目で直接的に見て確かめてみたいという気持ちが強くなった。そして諸外国の人々と話し合いながら多くの名刺交換を行い、お互いの母国を訪問した時には、それぞれが案内役を務める約束をしたしだいである。UIFAの大きな意義は、このように諸外国の人々との交流を深め、お互いの良い所を取り入れ合うことにあるのではないかとこの思いを強く感じた世界大会であった。



パネルセッション

第3日目：10月7日 Day Three

小渡佳代子&薄井温子 KOWATARI Kayoko, USUI Haruko

10月7日午前：UIFAの会議は何が起ってもおかしくありませんが、ソウル大会のセッションは順調に進み、特に毎日企画されていた基調講演は、現場で国際的に活躍されている女性建築家の講演だけに魅力的でした。7日はミラノ工芸大学のMara Servettoさんで、国際的に設計事務所でも活躍もされている3つのプロジェクトを紹介された。人と人の関係、コミュニケーションストーリー、ダイナミズム、シークエンス、アクティブな時間の経過、変化にも多様に機能する空間のプレゼンテーション、ブッククロッシングスポットでのコミュニケーションシステムなどデザインワークをわかりやすく講演され、プレゼンや設計手法、柔軟性、プロジェクトのチームワーク等とても刺激を受け実務の勉強になりました。(小渡)

7日の見学はソウル市内中心にある清溪川(チョンゲチョン Cheonggyecheon)と東大門(トンデンムン Dongdaemun)デザインプラザ建設現場だった。

清溪川は暗渠と高架道路を撤去し、川を復元しソウル市民の憩

いの場にしたプロジェクトである。東大門デザインプラザは運動場が他所にできたため、建物の形を大胆なものにして、建築などデザインを多くの人にアピールし、将来はファッションを初めデザインの世界的ハブになろうとしている。東大門計画は日本の統治下に破壊された城郭の復元の目的もある。清溪川計画もかつての川の復元であるが、両者とも過去の復元にとどまらず、未来への指標を示し、国や市も文化に支援を行い経済効果もあげようとしている。(薄井)



清溪川に復元された広通橋 (写真：I)



清溪川のアートフェスティバル (写真：NA)

写真でつづるポストコングレスツアー
Post-Congress Tour Photos

小川信子 & 井出幸子 OGAWA Nobuko, IDE Sachiko

- A: 10月9日ソウルを立ち、慶尚北道-金泉市にある黄岳山直指寺にて精進料理の昼食。慶尚北道 2010 建築祭を見学。慶州に入り良洞民俗村見学。慶州泊
- B: 10月10日早朝、慶尚北道慶州の石窟寺にてご来光を仰ぐ。仏国寺、新羅ミレニウムパーク、慶州歴史地区ツアー（古墳、天文台、崔家、橋の復元）、慶州泊
- C: 10月11日慶州発全州へ。全羅北道の歓迎をうけ、あさり粥の昼食。セマングムの大干拓の水門見学。市内の韓屋に宿泊。
- D: 10月12日全州市内の韓屋ウォーキングの後、全羅北道庁舎にて全羅北道 2010 建築祭の建築科学生作品優秀賞の授与式に立ち会う。ピビンパフの昼食後、ソウルへの帰途につく。



B: 両班の崔家の主。河回洞の仮面劇の面を髯とさせる表情だ。縁側より一段低いオンドル部屋から登場し、韓国式の座り方で対応。(写真:O)



C: セマングムの大干拓の水門を見学、満潮で、怒涛のように海水が陸地側に流れ込んでいた。プレゼンの大開演に対する質疑に対し、反対運動や疑念が起きる度にわれわれは立ち止まり考えることを繰り返してきた。これからもそのようにしてゆきたいとの説明。(写真:O)



A: 金泉 黄岳山直指寺の建立逸話と倭乱以降の顛末の説明受け、法華宮にて韓国版精進料理を戴く。食後、蓮の花に緑茶を注いだ風雅なお茶を振舞われる。(写真:1, NO)



C: 全州市の夜、ダルマヤカンのマッコリをご馳走に。なる。(写真:NO)



D: 16種類の具だくさんのピビンパフ。(写真:NO)



B: 慶州仏国寺 青雲橋・白雲橋。石段を「橋」と呼ぶのは、俗世と仏国土である「釈迦如来の彼岸世界」を結ぶという意味だそう。石釘を用い、階段・アーチが、細く、薄く、組み立てられている。石の柱に自然石を埋めるなど、日本と異なる石の構造を見る。(写真:O, I)



D: 全州市の韓屋に宿泊。日本チームに用意された宿-承光齋-は、韓国併合で日本の公族となった大韓帝国皇帝高宗の五男の李垺ゆかりの住まいだという。(写真:O)



D: 韓屋村のウォーキング: 扁額「岱」という字は全州崔氏が代々受け継ぐ所有地を意味するのだと、韓国の長老からうかがう。(写真:O)

第 50 回海外交流の会報告「環境をデザインする」
50th International Lecture: "Designing the Environment"

北島三和子 KITAJIMA Miwako

COP10 会議、日本開催で少しは自覚できたのかどうか。生物の一員の人様も地球規模での持続可能な生命維持には加担の責任がある。動植物はひたすらこの地球で身を守り種の保存を淡々と己の方法で今にあるのに、人は欲張ってたった半世紀で地球の自然環境に負荷を与えてきた。

「デザインする」とは創り人が意識決定し行動し構築すること。建築環境整備に関わる職業人の生物多様性対象にも責任は量り知れない。好みや見かけや経済や政治の思惑だけで自然を破壊し構築物を次々作る時代にオカシイと気がついている人は居たであろうが・・・その負のツケは大きい。

朴先生の講演を拝聴し伝統文化的な知恵を知り、何処の国もその大地に聞き、五官や六感を大切にしたい知性が重要な鍵と感じた。清溪川の復元が街の気温を2℃下げただけでなく人の心にも風を通したことだろう。

「環境をデザインする」とは? メジャーにマイナーにハードにソフトに、構築する関係者たちは大変なテーマとして常に未来を考える感性を持ちたい。自然と調和し人の心に衣食住の安心と豊かさが得られるように 21 世紀は今までの歴史の反省紀にしたい。権力 権限のある人には特に!



朴賛弼 講師 (写真:W)

ハンゲル講座に参加して
Attending a Basic Korean Class

「環境をデザインする」の講師: 朴賛弼 (Park Chanpil) 先生 (法政大学工学部助手) による「ハンゲル講座」が 2010 年 9 月 3・6・13 日 UIFA ソウル大会に備えて 3 回開かれた。UIFA ソウル会議への参加予定者などが参加。朴先生の自作のテキストを使い、IT で学べる指導法。ハンゲルは 550 年程前に新しく作られた文字で、朴先生は母音と子音の組み合わせが基本ですすぐ覚えられるとコメント。いやいやなかなか。(渡邊)



ハンゲルのスクリーン: ブルーハウスにて (写真:NO)

第 51 回海外交流の会

内容: 第 16 回国際女性建築家会議「ソウル大会報告の集い」
日時: 2010・11・27 (土) 14:00 ~ 16:00
場所: 新日鉄 代々木倶楽部 2 階 C 会議室
住所: 渋谷区代々木 3-5-9 (TEL/03-3370-3141)
申込: UIFA JAPON 事務局 FAX/03-5275-7866
E-mail/uifa@LIQL.co.jp
参加費: 会員: 1000 円 非会員: 1500 円 学生: 500 円
* 報告会終了後懇親会 (1000 ~ 2000 円) を行います。

UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-5-4

第2 押田ビル (株)生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@LIQL.CO.JP

発行 2010年11月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS
OF QUANTITY OF LIFE
DAINI-OSHIDA BLDG.
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU
TOKYO, JAPAN 〒102-0083PHONE :+81-3-5275-7861
FAX :+81-3-5275-7866

■ 2 回の「韓国住文化」勉強会に参加して

Korean Residential Culture Seminar

稲垣弘子 INAGAKI Hiroko

大会に先立ち、勉強会 2 講座が開かれた。6月27日北沢タウンホールにて、在塚礼子先生の講座。韓国住居の特徴的存在のアンバン(内房)やアンマダン(内庭)の意味と近代化による変容を説明頂き、内主人としての主婦の部屋であったアンバンは伝統文化を色濃く残し引き継がれていることなど興味深いお話を伺った。2つ目は9月18日法政大学にて、法政大学建築学科助手の朴賛弼先生の講座。韓国における伝統集住空間、清溪川再生等、六つのテーマの基に韓国の伝統集落や民家について自然人文環境および環境工学の視点からの話。韓国では風水が根底に集落が形成されていること。環境はその地域のすべての暮らしの生き方をデザインするには欠かせない要素であることなど。また、朴先生の3回の韓国語講座は挨拶だけでも日韓交流に役立ち、両先生の講座は伝統住居の見学や清溪川が見事に再生し市民の憩いの場となった姿など大変興味深く見学することが出来ました。



良洞の両班住宅の内庭

■ IAWA 25 周年記念 日本巡回展と講演会

Planning for the IAWA Exhibition and Lecture in Japan

UIFA JAPON 平成 23 年度総会時に、設立 25 周年を迎える IAWA の講演会が 2011 年 6 月 11 日(土) 午後開催されます。またその展覧会も 6 月の大会に合わせて開催されますが、2011 年 9 月に開催される UIA の日本大会時にも、青山学院総合文化政策学部の協力により青山学院アスタジオにて開催されます。IAWA は世界の歴史的な女性建築家についての体系的資料保存と歴史的研究を行う代表的研究機関であり、日本の草創期の女性建築家である中原・林・山田先生の業績も含まれております。このたびの展覧会開催に向けて UIFA JAPON の実行委員会(メンバーは松川淳子、北本美江子、中島明子、黒石いずみ、三上紀子)が発足し動き出しました。世界の女性建築家たち、とくに日本の女性建築家の歴史的軌跡とこれからのを考えるよい機会となることと存じます。皆さまの参加とご協力をお願いいたします。(黒石)

■ 英文パンフレットとホームページ <http://uifa-japon.com>

UIFA JAPON English Flyer and Website

新しい UIFA JAPON パンフレットの英語版ができあがりました。早速、ソウル大会での交流に威力を発揮した模様です。パンフレットと連動して作業を進めてきたホームページも開設されました。新情報に加え、なつかしい写真などもご覧になれます。検索で上位とするためにも、どうぞたくさんアクセスしてください。今後の運営は、ホームページ運営部会が担当します。なお、開設のため、小林純子さんからのエイボン賞寄付金の一部を使わせていただきました。(在塚)

■ 役員会報告

7月23日小川名誉会長の日本建築学会教育賞受賞記念講演会、UIA千人茶会の協力体制、会報第88・84号の発送、第50回海外交流会の準備報告。災害見守りチーム、ASWA組、パンフレット委員会、HP準備会経過報告。韓国大会準備。IAWA設立25周年記念展覧会協議、UIFA JAPON主催とする。他情報提供。
8月19日NL、ミニニュース、海外交流会の会、寄付受領の件、NL85号、第50回海外交流会の会及びこの指とまれ、韓国大会準備の進捗報告。災害見守りチーム、ASWA組活動報告。UIA千人茶会対応、IAWAとの事業について協議。他情報提供。
9月22日HP管理委員会発足、ミニニュース発送、第50回海外交流会の会及びこの指とまれ、韓国大会準備、NL85号・86号、HP、IAWA共同事業、UIA千人茶会対応について協議及び報告。災害見守りチーム、ASWA組経過報告。
10月21日韓国大会、IAWA共同事業、NL85号、第51回海外交流会の会準備報告。災害見守りチーム活動報告、パンフレット委員会予定、韓国大会のまとめ、IAWA共同事業、会員制度について報告及び協議。他情報提供

■ 魅力的なリノベーション No.11 Attractive Renovations

レンガ造の住宅をインテリア事務所に

Brick Residence Becomes Interior Design Office

中野晶子 NAKANO Akiko

3日目の夜ソウル市ご招待の宴席でのごこと、井出さんとリノベーション事案について相談した相手のリー・ホナムさんは、すでに携帯電話で交渉成立、気がつけば夜中の11時というのに彼女の革張りのスポーツカーに乗っていた私たち。連れていかれたのは、2階建てのレンガ造の住宅を、敷地まるごと改装したインテリア事務所。自宅から呼び戻されたデザイナー夫婦はすでに照明を全開にして待っていてくれました。1階は主人のアトリエとスタッフ14人の事務所、2階には夫人のスタッフが7人働いているという。日中のこの事務所の忙しさを想像し、病院、ホテル、集合住宅のインテリアについて、施主を招いて打ち合わせをしている姿は、黒を基調にしつつも、ありとあらゆる見本を揃えている倉庫を見れば容易に想像出来る。

スタッフを休ませる部屋や、地下室の仕掛け、庭の隙間を上手に生かした桐の木のある小空間、など行き届いた空間構成に、庭で拾った蟬の抜け殻でさえ上手にプレゼンテーションしてみせる小回りの効いたアイデアが、人々を魅了しているにちがいない。



ぐるっと回れるプランは流石のダナハムのオーナー金さん手描きのメモが残る1F平面図

惜別 飯島静江さん

UIFA JAPON 創設以来「UIFA JAPON NEWSLETTER」の発行に尽力した飯島さんのパワーはすごかった。小柄な身体がずっしりと大きく見えた。忙しくなった飯島さんから渡邊がバトンタッチしたのはいつであったか思い出せないが、ハンガリー大会(1996)の直前号の準備が難航して手作りのものは良く覚えている。飯島さんの推進力がベースにあったから、今85号「UIFA JAPON NEWSLETTER」が継続的に発行されているのだと強く思う。ご冥福をお祈りいたします。(渡邊)

■ 編集後記

天寿全うせり飯島女史、その笑顔は私にも百済観音(中野)。世界大会はお留守番でも、みんなの語に臨場感(須永)。行きかかった〜ソウル、次回大会こそは！(飯田)。韓国でお会いした最後の皇太子の歌を聴きながら(古村)。UIFA JAPON海外の会員に助けられIAWAの縁も育てて拡がりゆく(黒石)。私はskin designをやっており、facility designは別です、と若い韓国建築家。表層デザインが舞う(井出)。故鈴木貴貴子さんの丁寧な手描きの図面を処分する秋です(在塚)。飯島さんの訃報に言葉を失う(田中)。国際関係の緊張が続く日本に在ってUIFA世界大会に希望を見る(石川)。惜別そして誕生！人はいつも人たちの輪中にて幸あれ(渡邊)。

■ 写真撮影：(K:大会WEBHARD、O:小川、I:井出、NO:野田、NA:中野、W:渡邊)

■ 英文タイトル監修：Karen Severns